

平成26年度 第3回 桜井市地域公共交通活性化再生協議会 次第

日時：平成27年2月27日（金） 午前10時から

場所：中央公民館 大会議室

1. 開 会

2. 挨拶 会長 元田 清士

3. 議 事

1) 地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価について

- ・資料1：地域公共交通確保維持改善事業・事業評価

2) 平成27年度コミュニティバスの再編について

- ・資料2：平成27年度 桜井市コミュニティバス再編の概要
- ・資料3：循環路線の路線図
- ・資料4：初瀬・朝倉台線の路線図

3) コミュニティバス循環路線の愛称について

- ・資料5：愛称候補

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

資料1

平成27年1月30日

協議会名: 桜井市地域公共交通活性化再生協議会

評価対象事業名: 地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通ネットワーク計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通ネットワーク計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
奈良交通株式会社	系統名: 桜井市コミュニティバス(多武峯線) 運行区間: 桜井駅南口～談山神社	＜前回の事業評価結果＞ 利用者のニーズ調査が必要 ＜反映点＞ ニーズ調査や乗降数調査を行ったが、分析期間や計画策定期間が必要であるため、調査結果を反映した路線については平成27年度以降の運行を予定している。	A 計画通り適切に実施された。	B 目標としている17名/便に対して、実績は6.8名/便であった。(昨年は7.5名/便)。また、NW計画の目標である「月当たりの利用者数を前年比で増加させる」については、11月、3月、4月、9月の観光シーズンにあたる4か月に達成されており、談山神社までの観光路線として利用している方が増加していることが分かる。	平成26年度に、住民や利用者に対するアンケート調査や乗降数調査・分析を行い、総合連携計画を策定した。平成26年度にはこれに基づき運行実施計画を策定し、平成27年度中に市内の公共交通を、効率的でニーズに合致した路線への再編を行う。
日の丸交通株式会社	系統名: 桜井市デマンド型乗合タクシー 運行区間: 上之郷地域～済生会中和病院	＜前回の事業評価結果＞ 一定の利用水準を保つ。 ＜反映点＞ 計画通り実施した。	A 計画通り適切に実施された。	A 昨年の利用者数2,399人に対し、2,220人となり、約7%の減少だが、事業開始当初と比較すると高い利用率を保っており、一定の需要を満たしていると考えられる。NW計画の目標である「月当たりの利用者数を前年度比で増加させる」については、1年のうち3カ月達成する結果となった。	住民からの要望があり、利用可能範囲を一部拡大する。拡大の時期は、上記コミュニティバスの再編時期と合わせる。

※評価にあたっては、「事業評価を通じた地域公共交通確保維持改善事業の効果的実施にむけて(ガイダンス)」(平成25年11月)を参照し、実施。

桜井市地域公共交通活性化再生協議会

事業名：平成26年度地域内フィーダ系統

目的 計画 目標 (P)

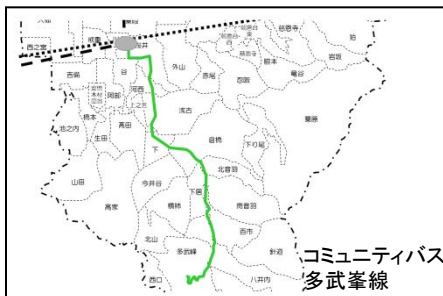
<計画> 桜井市生活交通ネットワーク計画

<上位計画> 桜井市第5次総合計画、桜井市地域公共交通総合連携計画

<目的> 桜井市地域公共交通総合連携計画に基づき、公共交通空白地域の解消、生活交通の確保を目的とする。コミュニティバス多武峯線の走る市内南部は桜井駅から談山神社までの路線となっており、観光路線としての役割も果たす。デマンド型乗合タクシーを運行している東部は、コミュニティバス小夫線が休止となった地域であり、代替路線として運行している。

<目標> 月当たりの利用者数を前年度比で増加させる。

概要図・参考資料



人口：59,424人(平成26年12月現在)

面積：98.92平方キロメートル

高齢化率：27.57%(平成26年12月現在)

系統数：4系統(内国庫補助2系統)

運行回数：コミュニティバス 1日平均9.5回

デマンド型乗合タクシー 週3日 計10回

自治体負担額 平成22年度 23,688千円 平成23年度 29,932千円

平成24年度 33,088千円 平成25年度 34,681千円

協議会等開催状況 平成26年 5月28日 第1回協議会開催

平成26年 8月27日 第2回協議会開催

具体的取り組み (D)

平成26年度事業：地域内フィーダ系統

・コミュニティバス多武峯線・・・桜井駅南口から談山神社まで平日は1日10回、土日祝日は1日8.5回運行している。桜井駅では近鉄電車、JR、奈良交通の路線バス等、基幹路線と接続している。また、市内在住・在勤の方には、上限が480円から300円になる市民乗車証と、高齢者総合福祉センター利用者の片道運賃を100円にする割引を行っている。

・桜井市デマンド型乗合タクシー・・・桜井市の東部に位置する上之郷地域にお住まいの方を対象として、月曜5便 木曜3便 金曜2便、お宅から駅や病院等市内の主要施設への運行を行っている。午前の便は往路、午後の便は復路の運行。

取組みに対する評価 (C)

コミュニティバス多武峯線・・・目標としている17名/便に対して、実績は6.8名/便であった。また、NW計画の目標である「月当たりの利用者数を前年比で増加させる」については、観光シーズンにあたる4か月に達成されている所から、生活利用の度合いが少ないことが分かる。

デマンド型乗合タクシー・・・1年間の実績は2,220人となり、前年に比べ7%減、月ごとの利用者数も3か月を除いて未達成となった。

自己評価から得られた課題、対応 (A)

<課題> ①利用者のニーズ把握 ②路線の効率性・利便性向上 ③観光路線としての需要発掘

<対応> 生活利用者の少なさから、住民がコミュニティバスに求めているニーズを適切に把握し、路線に反映させる必要がある。また、コミュニティバス多武峯線は観光施設「談山神社」までの交通手段となっており、観光路線としての需要のさらなる掘り起しも行う。デマンド型乗合タクシーは、住民からの要望により、協議会で協議したうえで、平成27年度中に利用範囲の拡大を予定している。

アピールポイント、特に工夫した点など

平成26年度に、住民や公共交通利用客に対するアンケート調査や、市内観光施設利用者を対象としたアンケート調査、コミュニティバスの乗降数調査などを行い、調査結果を分析し、第2次桜井市総合連携計画を策定した(平成26年3月策定)。本計画に基づき運行実施計画を作成し、平成27年6月以降の市内公共交通を効率的でニーズに合致した路線に再編する。運行実施計画の中では各路線に対して具体的な数値目標を定めることで、より厳密な評価を行い、次年度以降の路線に反映させるシステムを確立させる。

今後の大きな課題としては、持続可能な運行システムの確立や、モビリティ・マネジメントの推進による公共交通の利用啓発など、企業や市民と共に公共交通について考えるシステムが必要となっている。

自己評価に対する委員からの意見

奈良県交通運輸産業労働組合協議会 大西 秀樹 委員

＜資料２の２枚目＞

自己評価から得られた課題・対応（Ａ）

「③観光路線としての需要発掘」については、既存の交通事業者との連携をもっと強めて、大阪・京都等の大量消費地からの誘客を積極的に行う必要があると考えます。とりわけ、JR、近鉄、奈良交通の桜井市への幹線路線を持っている事業者との連携が重要と考えます。それには、コミュニティバスの業者選定基準に、桜井市へのインバウンド策などを加えるなどの具体的な対応が必要と考えます。

平成27年度 桜井市コミュニティバス再編の概要

	北循環路線
運行形態	循環運行
運行ルート	桜井駅北口から反時計回り
運行便数	毎日6便
設定運賃	定額運賃(190円)

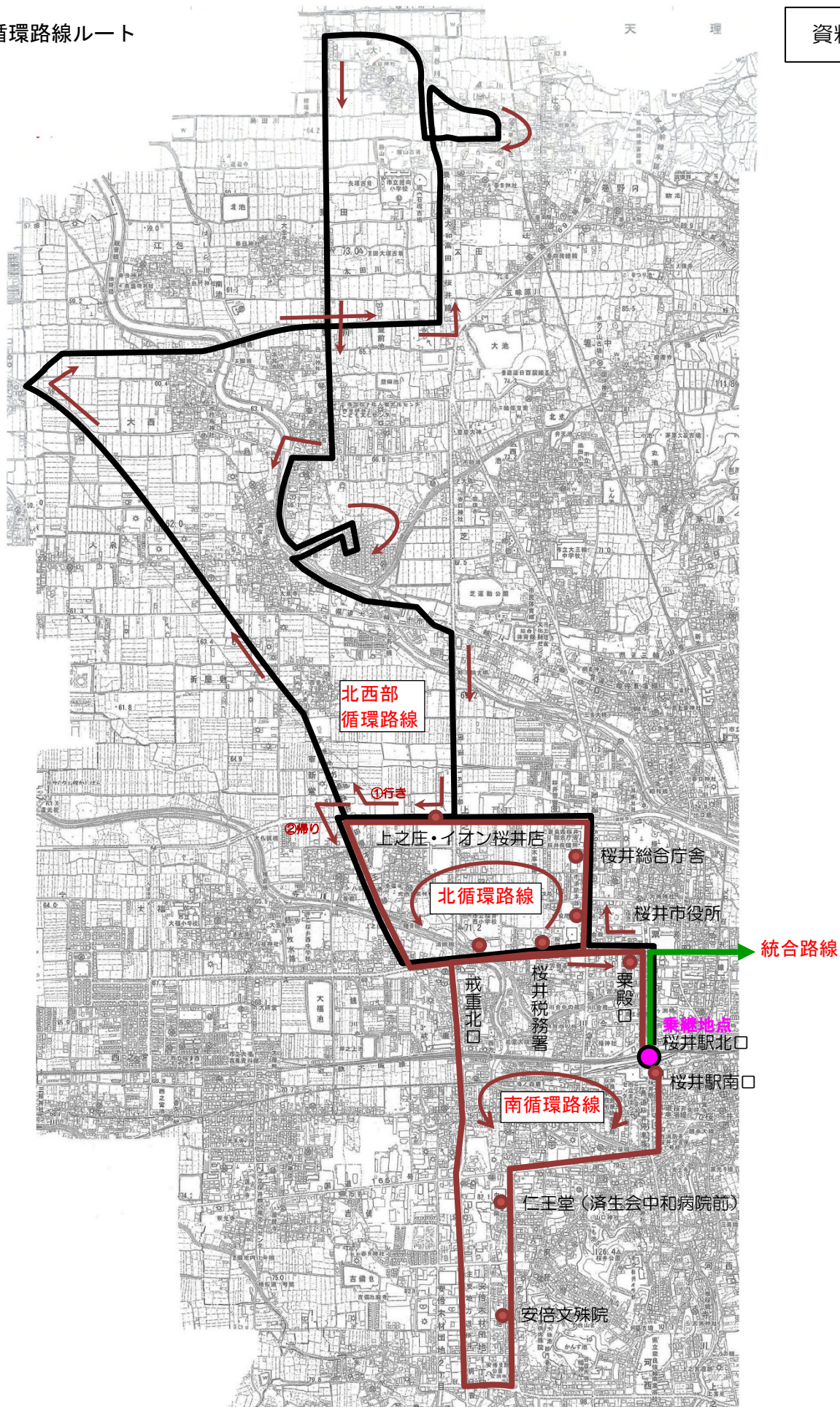
	南循環路線
運行形態	循環往復運行
運行ルート	桜井駅北口から反時計回りに桜井駅南口まで運行し、同じルートで北口まで戻る
運行便数	毎日6便
設定運賃	定額運賃(190円)

	北西部循環路線
運行形態	循環運行
運行ルート	桜井駅北口からイオンを通り、北西部を巡回した後再度イオンを経由してから桜井駅北口に戻るルート
運行便数	平日3便
設定運賃	定額運賃(190円)

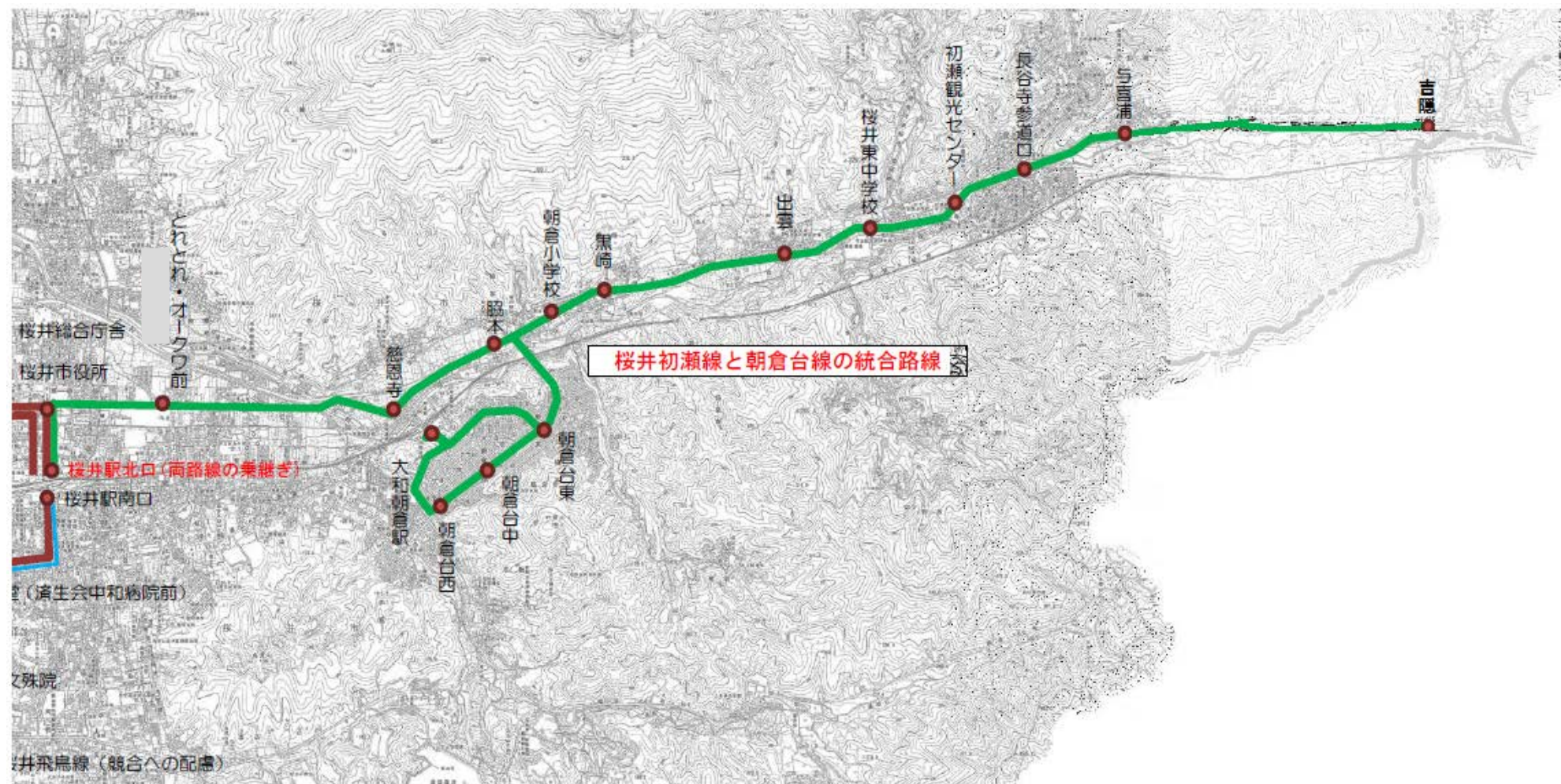
	初瀬・朝倉台線
運行形態	往復運行
運行ルート	朝倉台進入便、吉隠延伸便、朝倉台進入・吉隠延伸便、の3パターン
運行便数	平日 9.5便 学校休校日 7便
設定運賃	距離運賃制(190円～300円)

※全路線(多武峯線含む)共通項目

割引制度	コミュニティバス同士を乗り継ぐ際は「乗継券」を配布し、乗り継いだ先の運賃を190円引き
その他	小児及び障害者手帳を持っている方は半額 10円未満は切り上げ



■初瀬・朝倉台線ルート



平成27年度 コミュニティバス 循環路線愛称候補

	名称	補足説明
①	ひみこちゃん号	
②	さくらっこ	
③	桜井咲～くるライン	いつも朝倉台線の桜井駅→イオン→生田間を利用させていただいています。又、土曜日は桜井初瀬線の桜井駅⇔桜井東中学校間と、車に乗らない私にとって大変ありがたく、助かっています。ただ、阿部に住んでいる私にとってもう少し延伸していただけたら・・・と思っていました。ですので、来年度のルート変更に期待をし、それによって利用者数が増えるようお願いを込めて、桜咲く「桜井咲～くるライン」という名称を考えてみました。
④	さくらくバス	